



綾道

あやなんっ
ひらなみなみ
まつはら
くがい
平良南／松原・久貝コース

綾道

あや
んつ

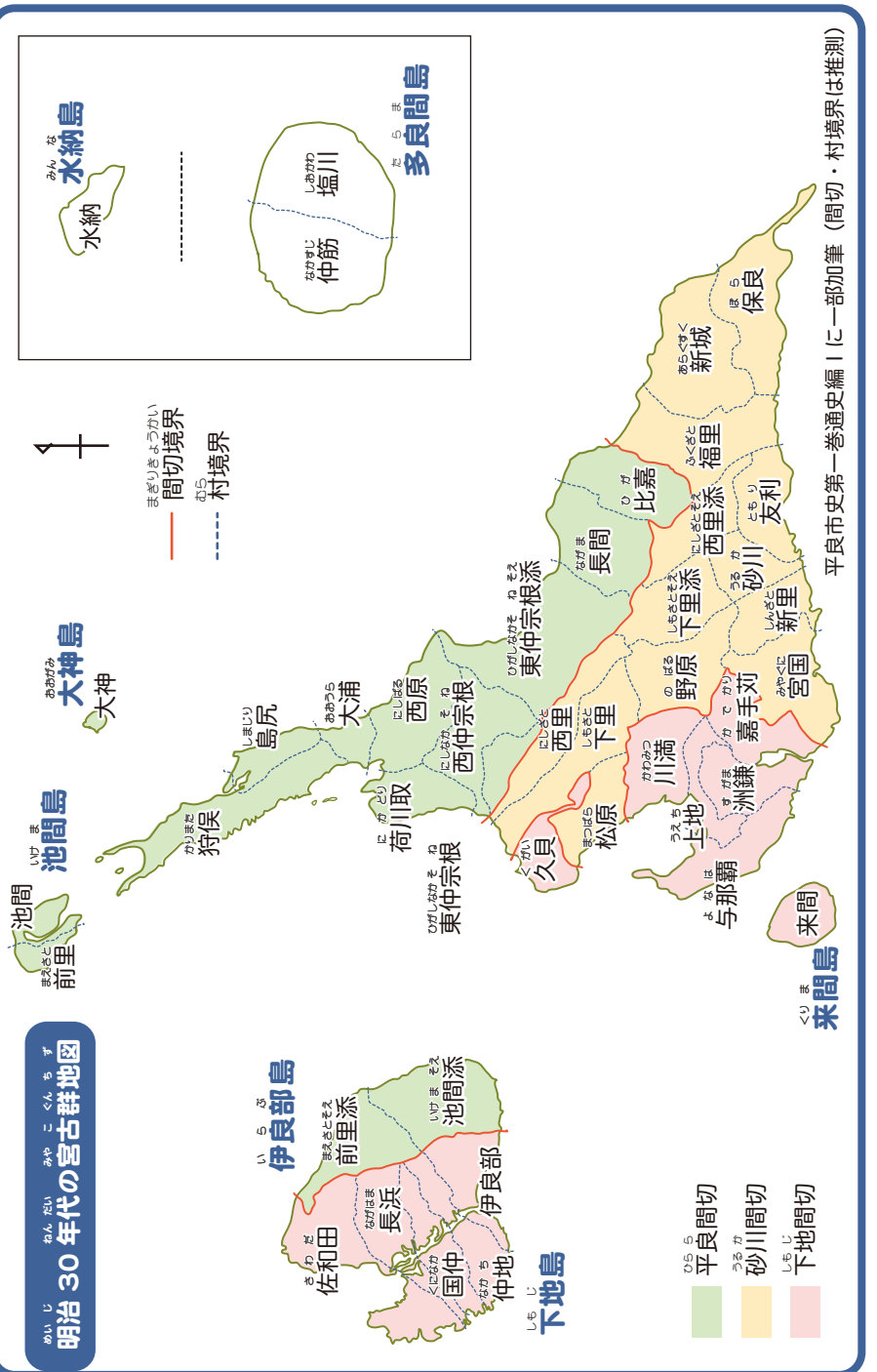
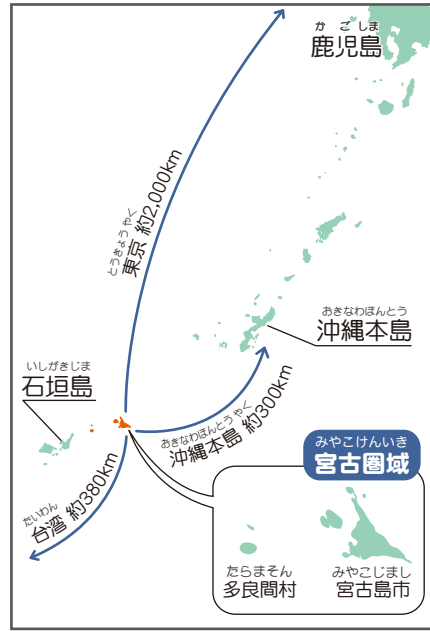
おもむき みち なやにじま
「趣のある道」のことを、宮古島のことばで「あやんつ」といいます

宮古島の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

総面積は204キロ平方メートル、人口約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。





宮古島の位置と面積	02
明治30年代の宮古郡地図	03
平良	06
ひらら字まめちしき 北が西！？	07
平良南散策マップ	08
3つの市場と3つの通り ～平良のまちの変遷～	10
ニーマトゥクルザー(ウプムトゥ) 拝所	12
与那覇勢頭、琉球へ行く	13
本村家「報本」碑 市指定典籍	14
割重穀事件と讒書事件	15
アツママー(阿津真間)御嶽 拝所	16
アガスバ(東原)御嶽 拝所	17
平良第一小学校の正門と石垣 市指定建造物	18
宮古の高校のはじまり	19
ツツピスキアブ 市指定天然記念物(地質)	20
馬場団地の「馬場」って？	22
宮古のサトウキビと城間正安と人頭税	23
カママ嶺公園は石碑の集合住宅？！	24
宮古のクイチャー 国選択無形民俗	26
漲水のクイチャー	27
むかしの海岸線を歩いてみよう	28
ピキャズ 名所	30
大立大殿と空広の出会い	31

大立大殿みゃーか 市指定史跡	32
宮古二大勢力の関係図	33
西ツガ墓 市指定建造物	34
周辺の遺跡群	36
松原・久貝(久松)	38
野崎と松原と久貝と伊良部のおもしろい関係	39
松原・久貝(久松)散策マップ	40
久松の海神祭(ハーリー)	42
松原の獅子舞(シーシャ) 市指定無形民俗	44
久松五勇士顕彰碑 史跡	46
問：久松五勇士のなぞを説明せよ	47
ウブドマラ(大泊)御嶽 拝所	48
7人兄弟を探せ！ 歴史を作った！？野崎嫁	49
久松みゃーか(巨石墓)群 市指定建造物	50
ウブザー御嶽(ンムヌ主御嶽) 拝所	52
クジナ(久知名)御嶽 拝所	53
ミヌズマ遺跡の井戸 市指定史跡	54
ミヌズマ遺跡 埋蔵文化財	55
ミヌズマ遺跡発掘調査報告	56
スキラズマダニャーズ御嶽 拝所	58
宮古の氏姓から歴史を読み解く	59
文化財の体系図	60
それぞれの文化財の一例	61

平良



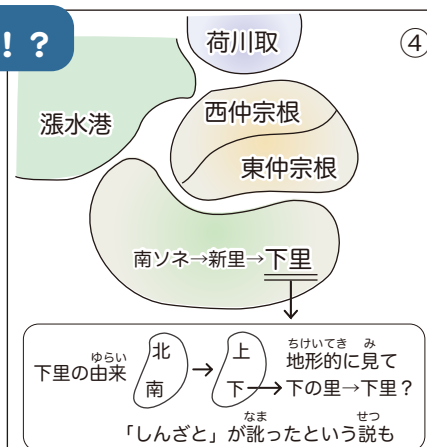
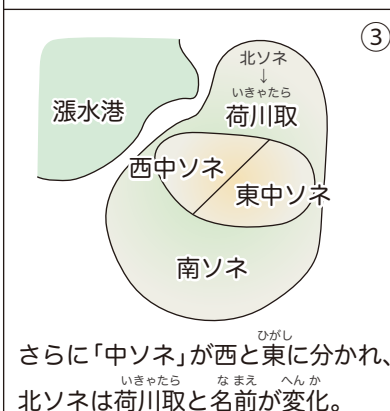
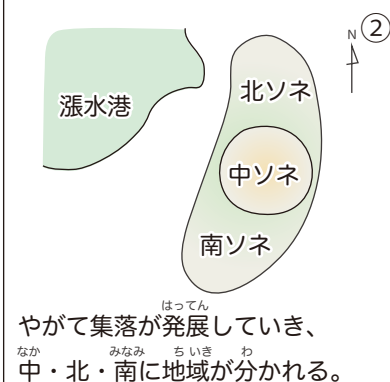
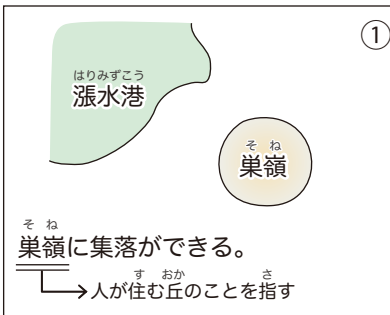
平良の名前の由来は、宮古方言で“平ら”であることを「ぴさ、ひさ、なだら」と言い、人が住むのに適した平らな土地であることを指しています。

平良の一带は、王府から派遣された在番が置かれたり、漲水の良港があったことで商業が発展し、古くから島の中心地として着実に成長してきました。

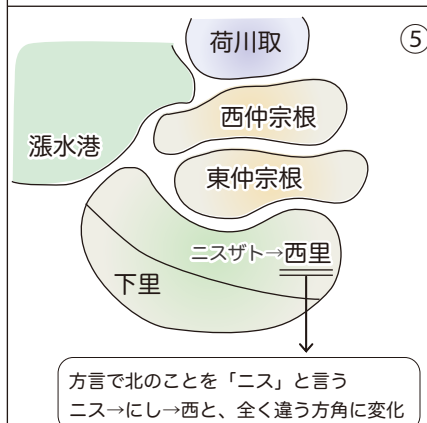
2005(平成17)年に5つの市町村が合併し、宮古島市平良となった現在も、島一番の繁華街として栄えています。

ひらら字まめちしき 北が西！？

平良の集落の成り立ちと字名を図解すると…



『雍正旧記(1727)』に記された村名。南ソネが下里と変化。仲、宗根は当て字。

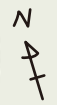


1766年、下里の北半分が西里に分村。元来、ニス(北)の里となるはずが転訛して西里と表されることに。

このように、宮古では方言の音に違う意味の字が当てられている地名が各所にあります。

距離：約5キロ
所要時間：3～4時間

平良・南散策マップ



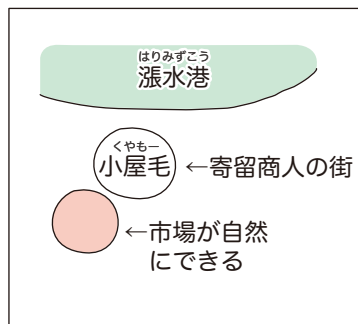
平良南



3つの市場と3つの通り～平良のまちの変遷～

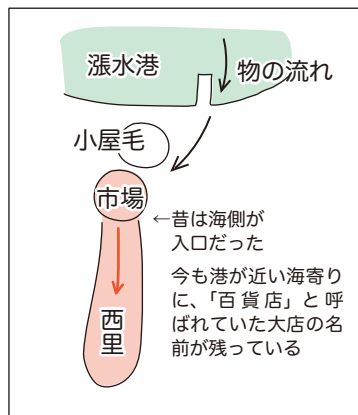
市場が生まれる

15世紀末から16世紀初頭、漲水港付近の小屋毛に、島外からの商人、いわゆる寄留商人が集落を築き、商売を始めました。やがてその付近に自然発生的に市場が生まれました。



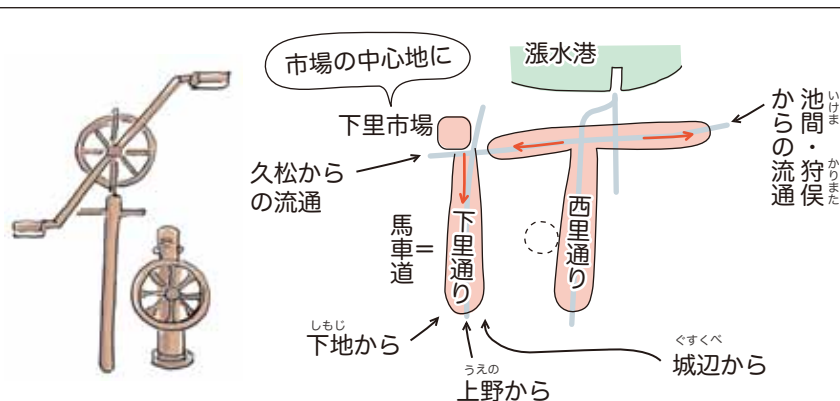
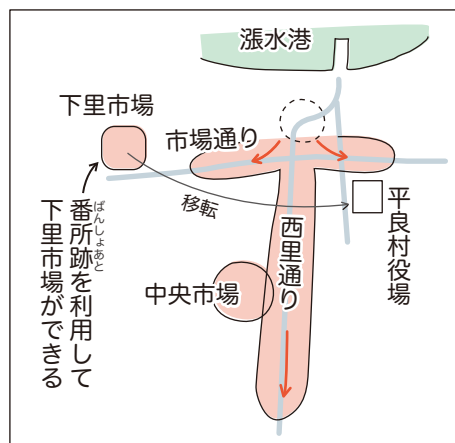
西里通りの誕生

取り扱う商品も増え、にぎわうようになると、手狭な市場から移転して商店をかまえるようになり、やがて「西里通り」が誕生します。島の物流は漲水港からやって来るので、海向きに一方通行になっている現在の西里通りとは、方向が逆でした。



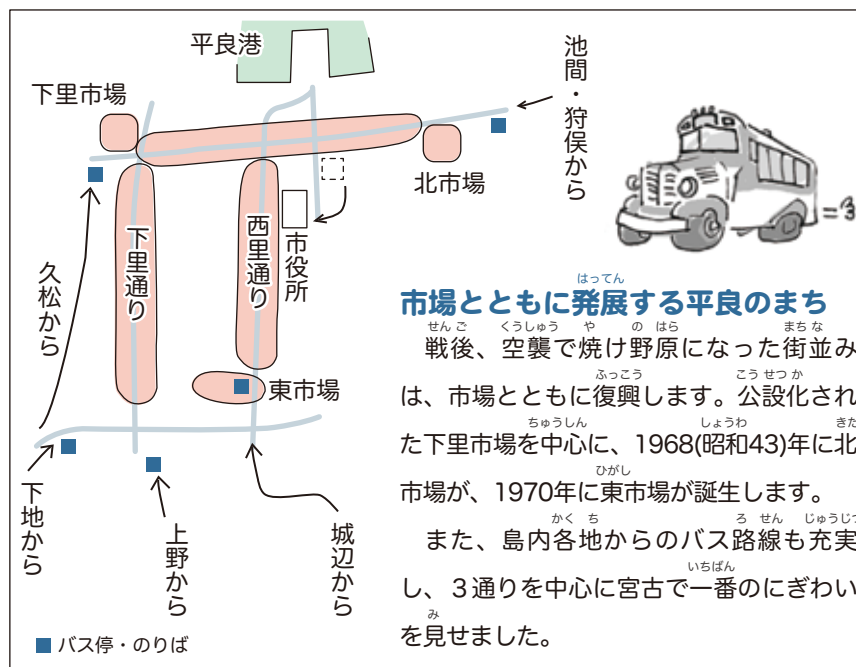
下里市場と市場通り、中央市場の誕生

1907(明治40)年頃「下里市場」が誕生し、西里通りへ繋がる市場通りが形成されます。下里市場には久松から鮮魚が届き、大変賑わいました。大正10年頃には西里通りに誰もが自由に売り買いしたり、物々交換ができる中央市場ができました。



下里通りの誕生

大正時代になると荷馬車などの普及と幹線道路の整備によって、島内の肉や魚、野菜などが下里市場に集まるようになります。下里通りは多くの馬車が往来していたことから「馬車道」とも呼ばれ、現在の下里通りの歩道タイルや駒止、街灯などは、馬車の車輪がモチーフになっています。



市場とともに発展する平良のまち

戦後、空襲で焼け野原になった街並みは、市場とともに復興します。公設化された下里市場を中心に、1968(昭和43)年に北市場が、1970年に東市場が誕生します。また、島内各地からのバス路線も充実し、3通りを中心に宮古で一番のにぎわいを見せました。

ニーマトゥクルザー（ウプムトゥ）



この拝所は、14世紀ごろの有力者であった与那覇勢頭豊見親の屋敷跡に由来するといわれており、「子孫繁栄・五穀豊穰の神（ウイカザーヌカミ）」として、与那覇勢頭豊見親が祀られています。

与那覇勢頭豊見親は、1390(洪武23)年に、中山に初めて朝貢したとされる宮古の首長であり、文の人、仁徳の人として長く人々に敬われています。



与那覇勢頭、琉球へ行く

14世紀の中頃、佐多大人率いる与那覇原軍は多くの兵を率いて村々を襲い、従わねばみな殺しにするという力による支配を敷いていました。漲水港付近を拠点とするもうひとつの勢力、目黒盛率いる目黒盛軍にも攻め入り、窮地に追い込みますが、最終的には敗れ、与那覇原軍は敗走します。

その生き残りの中に、真佐久という子どもがいました。成長して一族を束ねるようになった彼は、同族の再興を計りたいと願い、白川浜で7日7夜の祈願を行うと、東方に自分たちを救う国があることを知ります。やがてある日、琉球の船が浜に漂着し、真佐久は船の人々から琉球や明国の話を聞き、琉球こそが我々

を救う国だと信じ、部下と共に白川浜から琉球へ向けて出帆します。無事に那覇の泊へ到着し、中山王の元へ向かいますが、琉球の言葉が判らず困窮してしまいます。その様子に同情した中山王は、泊に屋敷を貸し与えて言葉などを学ばせます。3年後、ようやく言葉を習得し、中山王へ忠誠を誓い、力添えを頼んだ真佐久は、宮古の首長に任じられ、帰島します。

真佐久は人々から与那覇勢頭豊見親と呼ばれ、一族を再興させた人物として讃えられました。

1390(洪武23)年には、八重山の首長とともに中山へ朝貢をします。これが宮古・八重山の中山朝貢の始まりです。



与那覇勢頭豊見親顕彰碑（白川浜、「与那覇勢頭豊見親沖繩島繁栄出発之地」と刻まれている。）



与那覇勢頭豊見親逗留旧跡碑（那覇市泊那覇市の文化財。）

本村家「報本」碑



この報本碑の書は、尚泰王時代の三司官(行政最高責任者)であった宜湾親方朝保(唐名=向有恒)が、向裔氏一門の下地の頭職、向朝祥(本村朝祥・在任1851~76年)に贈ったものです。

碑には「同治甲子仲冬穀旦 向朝祥敬 報本 向有恒書」と刻まれ

ています。報本とは家系の本のことで祖先と君主に「報いる」という意味があり、同じ向姓一門としての両者の関係を示していると考えられています。

※個人宅のため、所有者に同意を取ってから見学をしてください。



割重殺事件と讒書事件

割重殺事件

琉球王政の末期、役人の中に税を勝手に割増し、差額分を着服する者がいました。

1849(尚泰2)年、島内の行政を監視し、役人の行動や不正などをただす立場であった本村朝祥らによって事件が摘発され、琉球王

府に報告されます。関係者は数十人に及び、役人13人が免職のうえ、流罪となりました。

これにより本村朝祥は下地の頭に任ぜられ、以来25年間、74歳の生涯を閉じるまで務めました。

讒書(落書)事件

1858(尚泰11)年、琉球王府から派遣されていた役人の宿舎に、王朝の批判が書かれた落書が投げられますが、犯人が不明なまま時間が経ちました。

2年後の夏、薩摩在番奉行所に宛てた訴状を商人に密かに託し、届けようとした事件が起こり、世は騒然となりました。

訴状の内容は王府にとって反逆行為に等しく、すぐに宮古在番に犯人の検挙が命ぜられました。

島内の文筆の才のあるものは全て疑いをかけられ、下地の頭本村朝祥も容疑者として、拷問を受けます。

過酷な取り調べの結果、「前」島尻与人の波平恵教が首謀となり、「前」多良間首里大屋子ら4人と共謀したものであることが判明し、朝祥は無実とされます。4人の共謀者は流罪となり、首謀者の恵教は3年間牢に入れられたのち、1863年に首を斬られました。

「報本」碑はこの翌年1864年に送られていることから、これらの事件に何らかの関係があるのではないかと考えられます。

落書：政治・社会や人物などを批判・風刺した匿名の文書

アツママー(阿津真間)御嶽



アツママー御嶽は、男神「にーらうぶ天太」うぶ張又主が祀られています。張又主とは人の行いを記帳する者という意味で、『宮古島庶民史(1957)』には、死後の世界の入り口で生前の行いをもとに審判を下す神と記されています。かつては奉納角力が行われるような盛大な祭祀行事がありました。今でも学問の神として、多くの参拝者が訪れます。

※宮古史伝では、子方母天太を母とする12方の神々のうち、蒲戸金主が祀られていると記されています。



アガスバリ(東原)御嶽



この御嶽は目黒盛豊見親の子孫の屋敷跡に由来する拝所で、中には「目黒盛豊見親之霊位」が建立されています。目黒盛の子孫が始祖を遥拝するために作ったものとされ、現在では里御嶽として参拝されています。目黒盛は14世紀中頃の豪族で、与那覇原軍を打ち破り宮古島を統一したとされています。また、その子孫として仲宗根豊見親などの統治者が生まれています。



平良第一小学校の正門と石垣



平良第一小学校の敷地を囲う石垣は、1932(昭和7)年頃に築かれたと考えられています。上野線(県道190号)に沿った南側は校地拡張により消失しましたが、校地北側の旧正門を含む、3辺の石垣は現在も残されており、間知積みや布積みといった当時の石造技術を知ることができます。平良第一小学校は歴史のある学校で、文献では1823(道光3)年まで遡ることができます。



宮古の高校のはじまり

おきなわ けん りつ こうとう がっこう きゅうせいもん
沖縄県立宮古高等学校 旧正門



沖縄県立宮古高等学校は離島で初めての高校です。1928(昭和3)年

じょ
沖縄県立宮古高等女学校
・宮古女子高等学校跡地之碑



かつて「宮高女」の愛称で親しまれた沖縄県立宮古高等女学校は、女子の高等教育の機会を求めて、1936(昭和11)年に宮古郡町村組合立宮古高等女学校として開校しました。開校直後の11月には、下里馬場(現在の市営馬場団

に開校した沖縄県立第二中学校宮古分校(現在の県立那覇高校)として設置され、翌年に旧制・宮古中学校となります。1948(昭和23)年の学制改革で、「沖縄県立宮古高等学校(新制)」となりました。校舎は幾度となく改築されていますが、正門は当時の姿を残しています。

地)で催された「ドイツ皇帝感謝碑建立60周年記念式典」で、ダンスを披露するなど、早くから活躍を見せました。創設時からの度重なる陳情の末、1940(昭和15)年に念願の県立化が果たされ、1948(昭和23)年の学制改革(新制)によって宮古女子高等学校に名を改めます。1954(昭和29)年、共学化が図られ、当時男子校だった県立宮古高校と合併、「宮女」は廃校となりました。現在、旧校地は県立宮古高校の野球場となり、宮高女・宮女を偲ばせるものはこの記念碑だけとなっています。

ツツピスキアブ



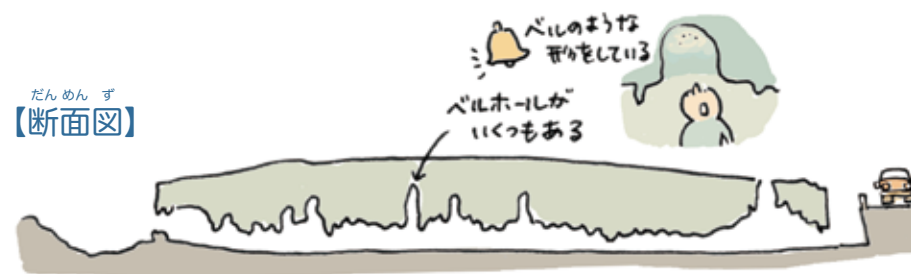
おお はらみなみこう えん ない い ち し ない さいだい
大原南公園内に位置するツツピスキアブは、市内では最大
き ぼ よこ あな どう けつ やくすう まん ねん まえ かいちゅう かい
規模の横穴洞穴です。この洞穴は、約数10万年前の海中の貝
たいせきぶつ ち かく へんどう かい すいめん へんどう りゅう き
やサンゴなどの堆積物が、地殻変動や海水面変動で隆起して
りく ち あと う すい しんしょく さ よう けい せい
陸地になった後、雨水などによる浸食作用によって形成され
たものと推測されています。城辺地区
すい そく ぐすくべ ち く
のアブチャー(仲原洞穴)、上野地区の
なか はら うえ の
ピンザアブとともに古い時代の洞穴と
ふる じ だい
考えられています。



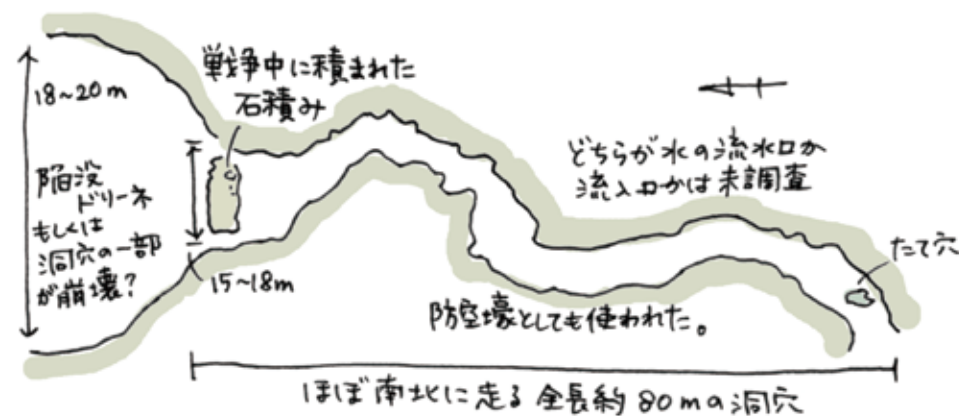
ツツピスキアブ = 「頂上付近を貫く洞穴」
頂上部付近 貫く 洞穴



だんめん ず
【断面図】



へいめん ず
【平面図】



馬場団地の「馬場」って？

いまの市営馬場団地付近は「下里馬場」と呼ばれた、宮古で唯一の競馬場がありました。競馬場といっても、速く走ることを競い合う競馬ではなく、側対歩で、定められた直線コースをいかに美しく優雅に馬を歩かせるかを競う琉球競馬でした。1697(元禄10)年に首里王府から派遣された在番の友寄親雲上が作らせたもので、いわば土族のための競馬場でした。

明治になって近代化が進むと、士族は弱体化し、琉球競馬も廃れていきます。馬場は周辺の原野を切り開いて「宮古郡運動場」として再開発され、陸上競技大会をはじめとする郡規模で開催する催し物会場として転用されました。

1908(明治41)年、特別町村制の施行によって、これまでの間切から町村に生まれ変わります。



初代平良村長に選任された仲松恵知は、この下里馬場で平良村創立を執り行ないました。

戦後、発展目覚ましい平良市は、1967(昭和42)年に旧馬場の再々開発に着手します。宮古で初めてとなる公営住宅団地を建設し、住宅難の解消を図りました。それが現在の市営馬場団地です。

※宮古では土族以外の競馬はかたく禁じられていましたが、1894(明治27)年、人頭税廃止が決定したことに歓喜した農民たちが、鏡原の地で盛大な祝宴を開き、初めての農民による競馬も催されました。それ以降、島内では昭和初期頃まで競馬が盛んに催され、鏡原の馬場をはじめとして各所に馬場が設けられました。現在、鏡原馬場跡は宮古島市指定史跡に指定され、いまでも当時の審判台が残されています。

宮古のサトウキビと城間正安と人頭税



1881(明治14)年、下里のヨシキ底に宮古で初めてサトウキビが植えつけられ、1883年には初の黒糖が製造されました。

1884年に、のちに人頭税廃止運動に心血を注ぐことになる城間正安が製糖技師として赴任してきましたが、当時、宮古では人頭税がいまだ続いており、納税の対象にならないサトウキビの生産は禁止されていました。

1888年、甘蔗栽培制限令の解除によってようやくサトウキビの生産ができるようになり、正安らによる製糖の指導も行われますが、農民たちは関心を示しません。理由は人頭税の負担が大きいうえに、出荷したサトウキビの代金が農民に支払われておらず、サトウキビを作っても収入にならないために反発していたのです。

それを知った正安は蔵元などと交渉し、砂糖で税を納められるようにすることと、製糖用の機具を無償で貸すことを認めてもらい、ようやく宮古でもサトウキビの生産が本格的に始められました。

しかし、依然として人頭税が重くのしかかり、農民の生活はいつに楽になりません。前年から続く飢饉も加わり、農民たちは負担軽減の嘆願をしますが、成果に結びつきませんでした。

そんな中、新潟県出身の中村十作が宮古島へ来島します。そして正安と知り合った十作は、困窮する農民の姿を知り、やがて人頭税廃止運動に傾倒していきます。

その後、十作と正安らの根気強い取り組みによって、1895年に人頭税の廃止が採択され、1903年、1637年から続いた人頭税がようやく廃止されました。

人頭税廃止によって自由に商売ができるようになった宮古は大きく発展し、サトウキビの生産も徐々に増えていきます。

現在の宮古島のサトウキビ生産量は年間約30~40万トンほどで、沖縄県内の総生産量の40パーセントを占め、県内最大のサトウキビ生産地域となっています。

カママ嶺公園は石碑の集合住宅？！

この辺りは蒲間嶺と呼ばれ、木々が生い茂る広大な丘陵でしたが、1976(昭和51)年に公園に生まれ変わりました。以来、長く市民の憩いの場となっています。高台にあるため、天気の良い日は宮古の島全てを見ることができます。敷地内には様々な石碑が立ち並び、宮古の文化の一端を覗くことができます。



ドイツ皇帝博愛記念碑
レプリカ(1972)
建碑100年記念祭の際に建立。

博愛 公爵近衛文麿書(1977)
ドイツ商船遭難にまつわる碑。



「しんしんと 肺碧きまで 海の旅」
篠原鳳作句碑(1972) 宮古高校教師を
勤め、島の文学界に影響を及ぼした。



シーサーも
いろんなところに

玄玄郷
カママ嶺公園に植物を寄贈
した小林玄二に感謝する碑。

宮古島6島
全てが見渡せる

展望台&
防災備蓄倉庫

「風に乗る ほかなし島のはぐれ鷹」
平良雅景句碑(2009)
鳳作の句碑の建立に尽力した人物。

島燃ゆる…情熱波紋 とどけこの想い!!
(1993) 日本青年会議所沖縄地区大会記念碑。

石碑名：(建立年)



シーサーの滑り台は子どもたちに大人気

グラウンドゴルフ
ばっしらん宮古島コース
南部忠平杯グラウンド・
ゴルフ大会に由来。

南部忠平氏を讃える碑(1989)
日本グラウンドゴルフ協会の
初代会長を讃える碑。



宮古のクイチャー解説碑

とうがにあやぐ 歌碑(2013)
古くから歌い継がれる宮古の
代表的な歌の碑。



「まかがよふ 真砂の浜は 寂寞と
時の器をみたしつつあり」
平良好児歌碑(1991) 宮古文学界
の「種蒔く人」と呼ばれた。



非戦の誓い(2007)
「日本国憲法 第九条」を記した碑。

「蒼海へ 鷹を放ちし 神の島」
山田弘子 句碑(2005)

「神々の 高さに鷹の 光りをり」
山田佳乃 句碑(2015)

宮古のクイチャー



クイチャーは宮古各地に伝承されている集団舞踊で、人々の祈りから始まったといわれる伝統芸能です。

豊年祭や雨乞いなどの祭祀として、また娯楽として、集落ごとに生き生きと踊られてきました。野外で男女が輪になり、大地を踏みしめ、皆で声をあわせて歌い踊ることから、

「くい(声)を合わせる(チャー)」と呼ばれています。歌は本来、楽器を使わず、豊穡を祈る歌や雨乞いの歌、生活や労働の悲しみや喜びなど、多彩多様な内容が謳われています。

はり みず 漲水のクイチャー

漲水のクイチャーは比較的新しいクイチャーで、人頭税廃止の請願運動に上京したひとびとが、人々を迎えるために作られたと言われていいます。歌詞は人頭税の辛さを歌っており、当時の生活を垣間見ることができます。

1. 漲水ぬ舟着ぬ 砂んむなぐぬよ
(漲水港の船着き場の砂が)
* ヤイヤヌ ヨーイマーヌーユ
砂んむなぐぬよ ニノヨイサッサイ
イヤサッサ (*以下くりかえし)
2. 栗んななり 米んななり 上がりくばよ
(栗や米になって上がってくれば)
3. 島皆ぬ三十原ぬ 兄小達やよ
(島の三十あまりの村の若者たちは)
4. ピラとらだカニヤ押さだ ゆからでだらよ
(へらを手に取り鋤を押さなくても楽になるのに)
5. 大神ぐすフジ並び 折波小ぬよ
(大神島の後ろのフデ岩の瀬に寄せる波が)
6. 糸んななり かしんななり 上りくばよ
(糸や総になって上がってくれば)
7. 島皆ぬ三十原ぬ 姉小達やよ
(島中の村の姉さんたちは)
8. ぶやんまだ糸掛だ ゆからでだらよ
(苧麻を績まず総をかけずに楽になるのに)



むかしの海岸線を歩いてみよう

埋め立てでほとんど面影がないように見える
まちなみも、よく観察をすると、昔の様子を知
ることのできる場所がいくつかあります。



昔は急崖をカーブを描きな
がら緩やかに登っていた。



昔の街並みが
いまだに残る

航海安全と
豊漁を祈る

フナイツカサ御嶽

うぶだていうぶどうぬ
大立大段みやーか

道路拡張によって削り取られ、いまの形に。

芝生の生えた大きな広場で、海で
宮古上布を洗って干していた。

大立大段の荘園跡

ピキャズ

長崎



埋め立て前の入江の形と堤防がいまだに残っている。



このあたりの家は、庭から
釣りができたとも聞く。



- 1977(昭和52)年 (国土地理院)
- 2004(平成16)年 (平良港湾30年工事誌)
- 2018(平成30)年 (国土地理院)

ピキャズ



ピキャズは、下地島の「通り池」のような、規模の小さい
 陥没ドリーネです。きれいな円形の穴が開き、アーチ状の横
 穴で海と繋がっています。市内の降り井で失くした木桶がピ
 キャズで見つかったという伝承があり、「地下で水脈(潮)が繋
 がっている=ピキャズ」が名前の由来だ
 と言われています。また、大立大殿と
 空広(のちの仲宗根豊見親)が初めて出
 会った場所とされています。



大立大殿と空広の出会い

14世紀末から15世紀にかけ
 て平良を拠点としていた、与那
 覇勢頭豊見親の孫、大立大殿
 は、父の泰川大殿が重い病のた
 めに隠居し、ふたりの兄も早く
 に亡くなったため、家督を継い
 で首長として宮古を治めていま
 した。

ある日、大殿は部下を伴なっ
 てピキャズへ漁に行く途中、畑
 で使用人たちに見事な指揮をし
 ている子どもを見かけました。

その子どもに興味を持った大
 殿は声をかけました。

「おまえはどこの家の子か？」
 「私は根間の大親の養子で、
 空広という者です」
 「年はいくつか？」

「7歳になります」
 先ほどの指揮ぶりといい、こ
 の堂々とした受け答えといい、
 面白い子どもに出会ったと喜ん
 だ大殿は、空広を誘ってピキャ
 ズへ漁に向かいました。

この日の漁はとても大漁で、
 大殿は空広の知恵を試そうと考
 え、「お前が今日の魚玉をうた
 せてみよ」と命じます。

“魚玉をうたす”とは、獲れた
 魚を人数分に配分することで、
 空広は瞬く間に手際よく公平に
 配り終わりました。

空広の聡明さに大殿は感服
 し、それからは自分の子どもの
 ように空広を可愛がって教育を
 施し、やがて政務を手伝わせる
 ようになりました。

こうして大殿の元で養育を受
 けた空広は、のちに大殿の後継
 者として島を治め、仲宗根豊見
 親と呼ばれて広く人々に敬われ
 ることになりました。



うぶ だてい うぶ どうぬ

大立大殿みゃーか



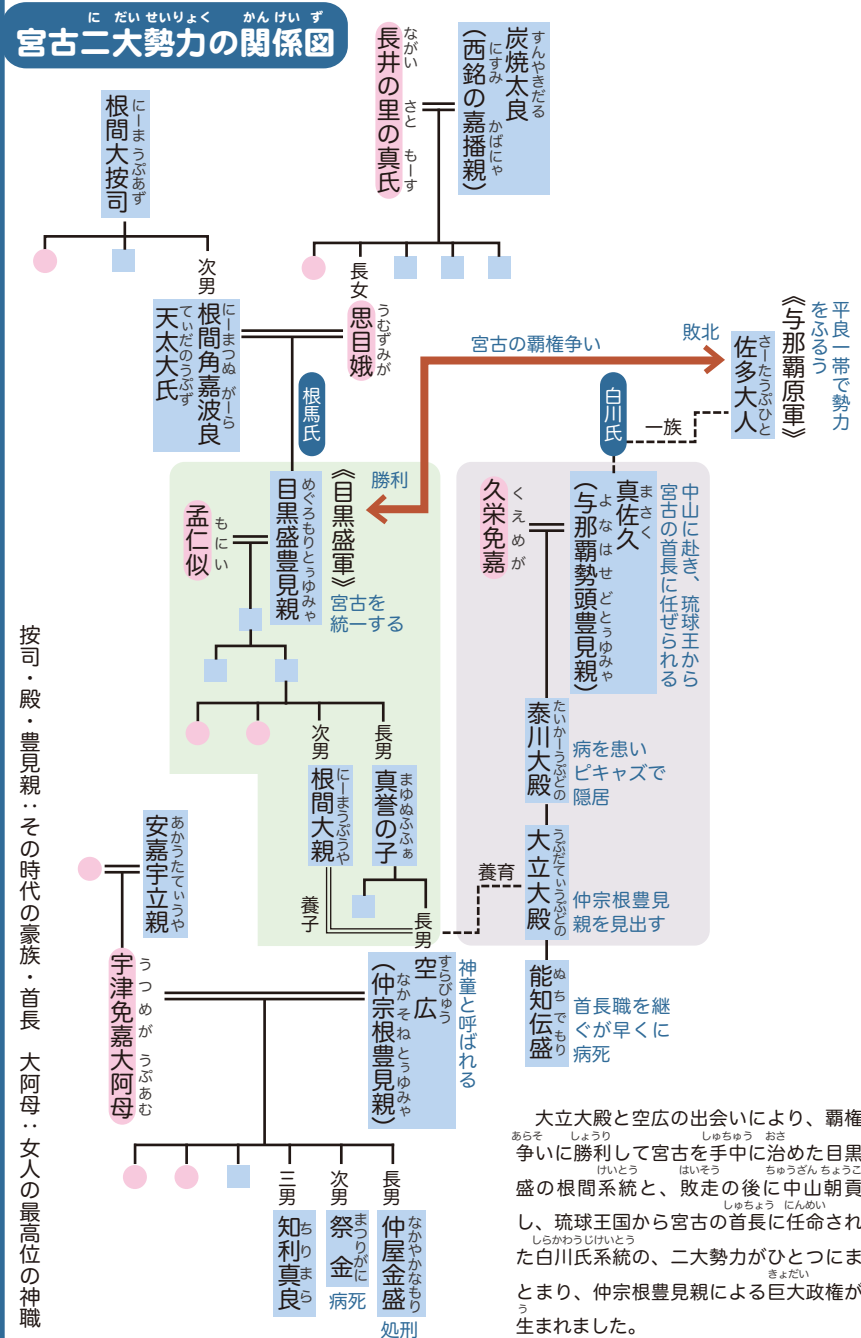
八重山博物館所蔵：1937年大島廣(南西諸島資源調査団員)撮影

大立大殿みゃーか(巨石墓)は、15世紀後半に宮古島の首長を務めた大立大殿の墓と伝えています。大立大殿は1390年に初めて中山に朝貢した与那覇勢頭豊見親の孫にあたり、のちの仲宗根豊見親となる空広を育て上げました。

かつては海岸の崖のそばに造られていましたが、埋め立てと道路拡張によって墓の周辺が削り取られたため、今の形で残されています。



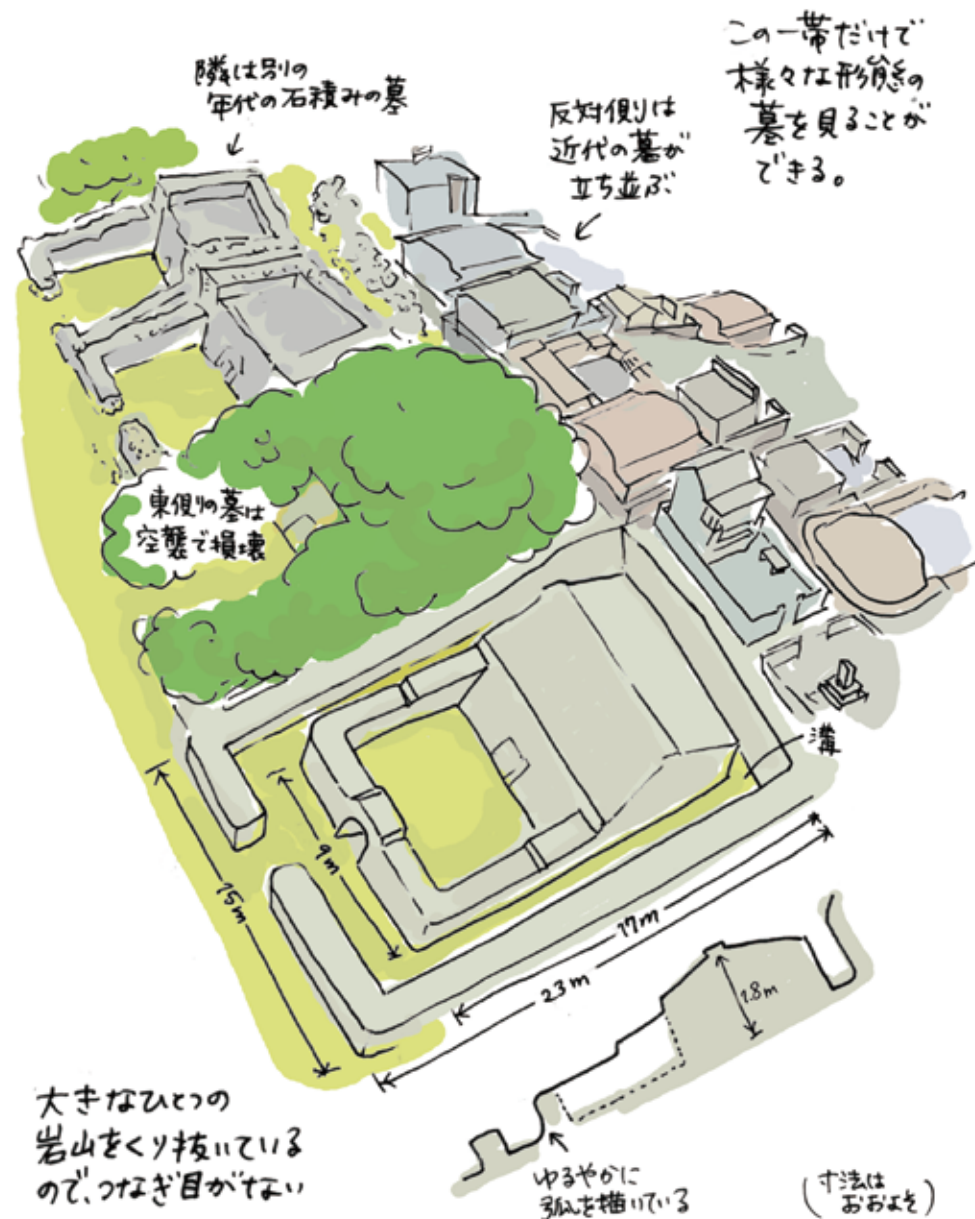
宮古二大勢力の関係図



西ツガ墓



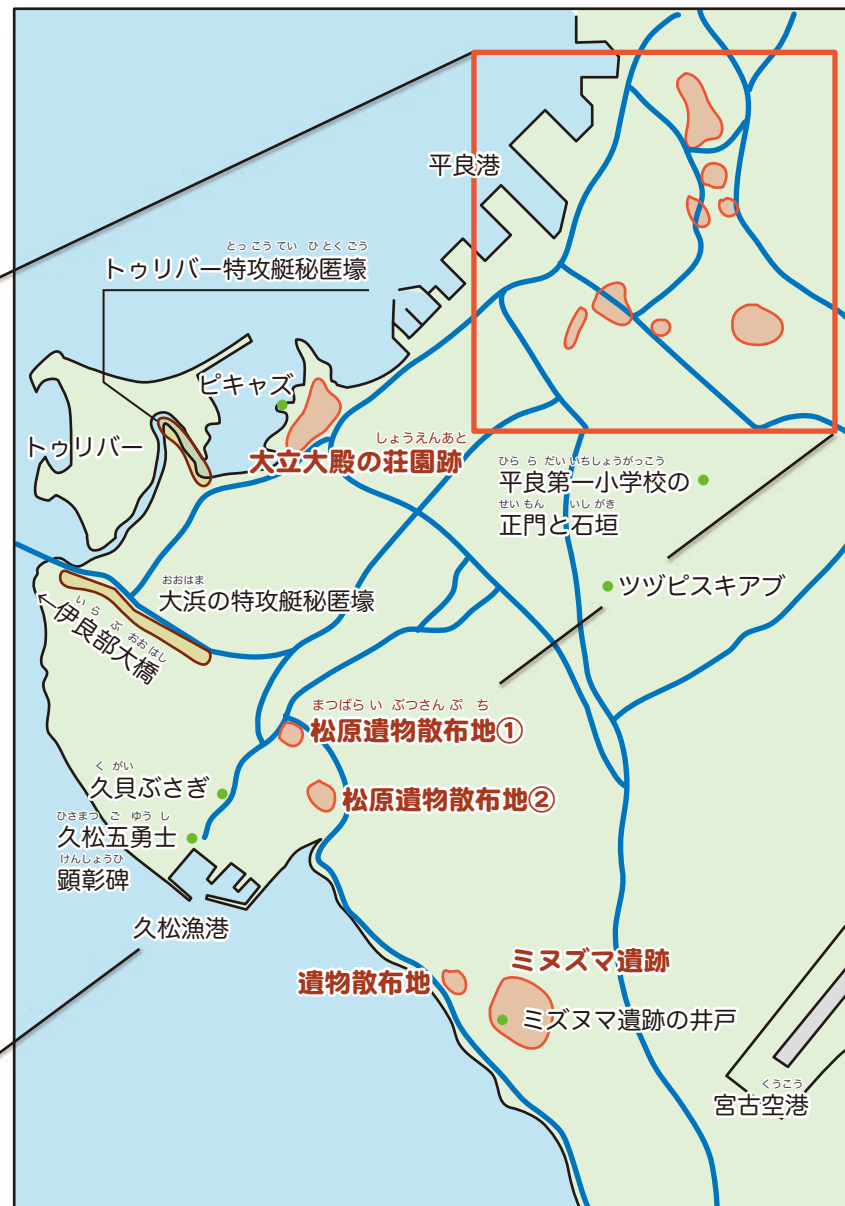
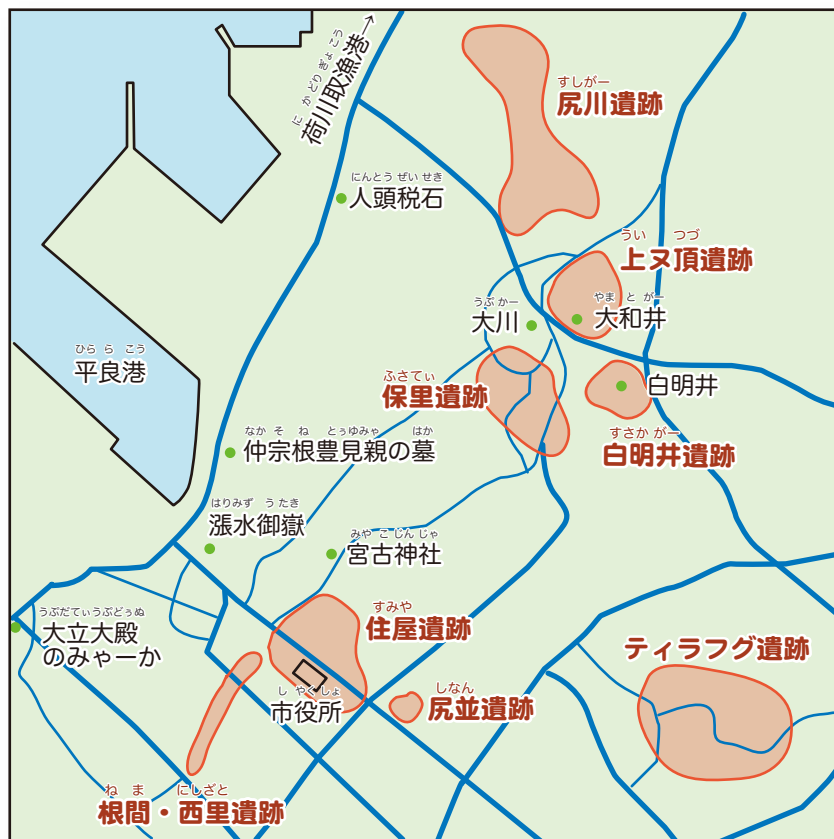
多くの頭職を輩出した、益茂氏一門の墓である西ツガ墓は、岩盤を削り出して造られているため、墓の入口もアーチ状にくりぬかれ、岩につなぎ目が存在しません。「ツガ」とは升を意味し、墓の周囲を掘り下げて真四角に造られていることから、墓名の語源とも言われています。また、東隣にも同様の規模を誇る墓がありましたが、こちらは先の大戦の空襲によって破損してしまいました。この墓の周辺には多くの墓が密集し、墓の作られた年代などによって、様々な墓の形態を見ることができます。



しゅうへん い せき ぐん
周辺の遺跡群

宮古では1981～82(昭和56～57)年にかけて沖縄県教育委員会による遺跡分布調査を実施し、表面踏査による調べで85か所の遺跡が確認されています。また近年の土地開発に伴い、新規の遺跡も数多く発見されております。

平良市街地や松原・久貝周辺は古くから人々が生活しており、埋蔵文化財が残されている可能性が非常に高い地域です。遺跡の表面に土器片や陶磁器片が散布していることが多いため、散策時に気にとめて歩くと、よりコースを楽しめるでしょう。 ※遺跡内の遺物を持ち帰ることは法律で禁じられています。



An aerial photograph showing a coastal city with a large harbor. The harbor is filled with greenish water and has several piers and docks. A large parking lot with many cars is visible on the left side of the harbor. The city is densely packed with buildings and houses, extending inland from the water. The background shows a hilly landscape with more buildings and a clear sky.

また、この地域は古くから「野崎」とも呼ばれています。

「久貝村」の村立後は、元々あった松原村と合わせて野崎2か村として記されるようになり、現在でも両集落を総称して「野崎」と呼んでいます。



松原・久貝 散歩マップ

距離：約 2.4 キロ
所要時間：1～2 時間

ミヌズマ遺跡の井戸 ...p54
ミヌズマ遺跡 ...p55

ウブザー
(ソムヌ主) 御嶽 ...p52

クジナ (久知名)
御嶽 ...p52

スキラース
マダニアーズ御嶽 ...p52

久松みゃーか
(巨石墓) 群 ...p20

松原の獅子舞
(シーシャ) ...p44

久松の海神祭
(ハーリー) ...p42

久松五勇士顕彰碑 ...p46

ウブドマーラ
(大泊) 御嶽 ...p48

START

1962 年の海岸線 (参考：国土地理院)

松原・久貝 (久松)

ひさ まつ かい じん さい

久松の海神祭（ハーリー）



毎年旧暦の5月4日を迎えると、海にゆかりのある地域では、海上安全と豊漁を願う「海神祭」が行われます。松原・久貝では、もともとふたつの集落が別々で催していましたが、現在は合同で行っており、久松地域で最も大きな祭りです。

各集落の御嶽で祈願をし、神事としてのウガンバーリーと余興の本ハーリーを行います。その後、魔除けと海上安全を祈った獅子舞いや奉納角力などが行われます。神事の場合の角力は勝敗をつけず、一勝一敗一引き分けがしきたりです。

ハーリー (爬龍舟)

起源は中国。1392~1405年頃に琉球へ伝わり、宮内省は糸満の漁師が伝えた。



《久松の海神祭》

1. 各御嶽で祈願
2. 御願ハーリー
3. 本ハーリー(余興)
4. 獅子舞
5. 奉納角力
6. 余興



まつ ばら し し ま

松原の獅子舞い(シーシャ)



かいじんさい さい かいがんばた ひろ ば かいじょう
海神祭の際に、パイザキと呼ばれる海岸端の広場で、海上
あん ぜん ほうりよう き がん ま よ ま おど
安全や豊漁祈願、魔除けをかねて舞い踊ります。

ぶん か ざい し てい く がい どう よう
文化財の指定は松原のみですが、久貝にも同様の獅子がお
きん ねん こう どう かしら たいしょうがん
り、近年は合同で踊られています。松原の獅子の頭は大正元
ねん しる だい め
年と記されており、今の頭は4代目だと言われています。

ほか ち いき きようそう おも
宮古の他の地域の海神祭はハーリー競争が主で、獅子舞い
えん しゅうらく
が演じられるのは、松原・久貝集落だけです。

松原と久貝の獅子舞い



すも 沖繩の角力

・お互いが腰ひそを
持ち、組みあてから
技をかけていく。

・相手の背中が
ついたら勝ち
土俵から
(出て、手足を
ついてオロ)



奉納角力
昔々50才の長男がとる。
松原・久貝が一勝一敗
したあと、3回目には
月着負をつけずに引き
分けるのが慣わし。

昔は奉納角力だけ
だったけど、最近では
余興角力もやるよう
になった。

ひさ まつ ご ゆう し けん しょう ひ 久松五勇士顕彰碑



サバニを形どった碑

1905(明治38)年の日露戦争当時、ロシアのバルチック艦隊が宮古近海を北上するのを領民が発見しました。宮古に通信手段がなかったため、久松の若者5人が選ばれ、約120キロ離れた石垣島へサバニを漕ぎ行き、「敵艦見ゆ」の電報を打たせました。その功績は戦時中、戦意高揚に利用されました。のちに高い航海能力と強い責任感を讃えて顕彰碑が建てられ、現在は五勇士にちなんだ行事が催されています。



とい ひさ まつ ご ゆう し かいめい 問:久松五勇士のなぞを説明せよ

五勇士の記録は諸説あります。

【早すぎた説】平良市史に記された与那覇蒲氏の証言では、旧暦4月14日(新暦5月18日)に大泊を出発、大本営への打電は翌日と書かれています。

【僅差説】1934(昭和9)年の新聞によると、出発は新暦5月26日で、打電は翌27日となっています。その電報より数時間前に信濃丸がすでに打電しており、「遅かりし1時間」と誇張されて取り上げられました。

【一日遅れ説】大本営宛ての電文

によると、八重山からの打電は5月28日となっており、信濃丸より丸1日遅れていたことになります。他にも、石垣島までの行程の途中、水納島へ寄港してひとり加わった、着いた地で疲れ果て1日寝てしまった、陸路を30キロ歩いたなど、実に様々です。



五勇士上陸之碑

与那覇蒲氏の証言による行程のイメージ



久松みゃーか(巨石墓)群



久貝ぶさぎ

みゃーかは、14～16世紀頃に建造され、かつては松原・久貝にまたがって多数あったと考えられています。現在、松原3基、久貝1基のみが市指定の文化財になっています。

久松ではみゃーかのことを古くから「ぶさぎ」と呼んでおり、4基の中で最も大きい久貝ぶさぎは、仲宗根豊見親の妻ウツメガの父、安嘉宇立親の墓といわれています。

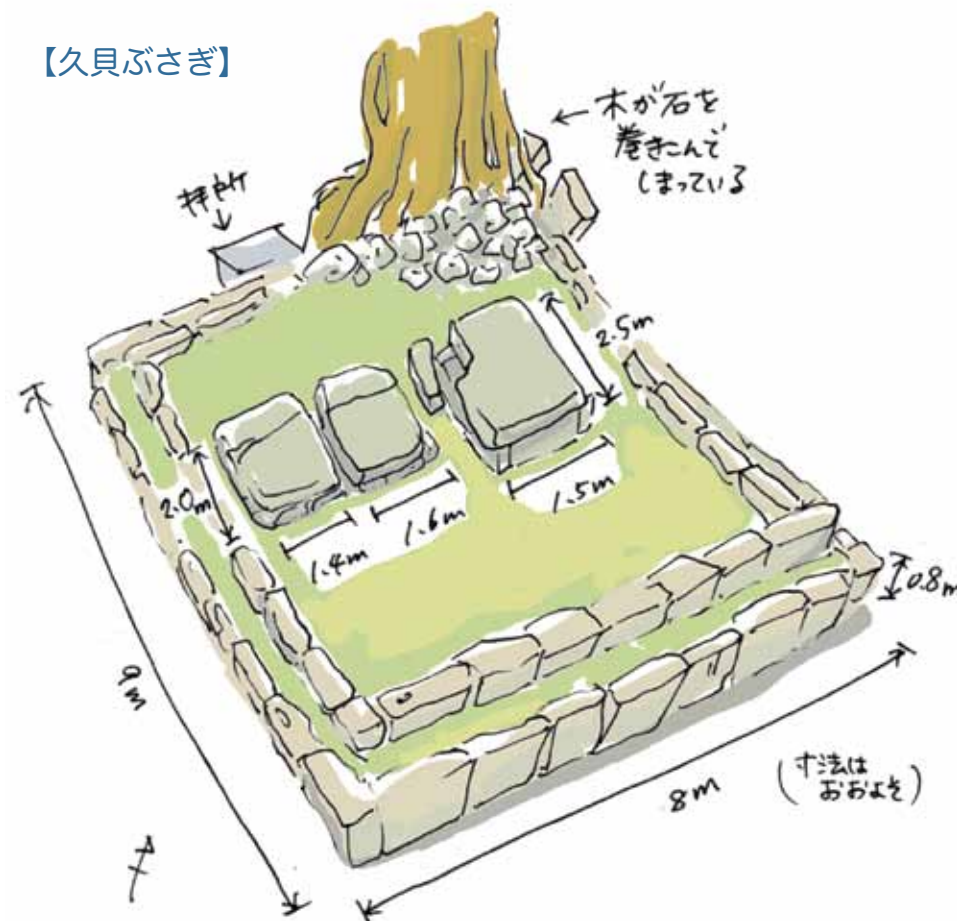


松原ぶさぎA



松原ぶさぎB

【久貝ぶさぎ】



ウプザー御嶽(ソムヌ主御嶽)



この御嶽は「芋の主御嶽」とも呼ばれる御嶽で、宮古に初めて唐芋(サツマイモ)を広めた人物のひとり、ウプザーガーを祀っています。1597(慶長2)年頃、砂川親雲上旨屋の一行の船頭だったウプザーガーは、台風で漂着した明から芋を持ち帰ります。これが宮古全島に広まり、芋伝来の恩人として祀られるようになりました。砂川親雲上旨屋もまた、芋の主*として西仲宗根に祀られています。



*綾道・平良北コース P38

クジナ(久知名)御嶽



この御嶽の祭神は久知名按司とその妻ウヤンマの夫婦神です。14世紀の中頃、各地を侵略していた与那覇原軍が野崎村を襲撃しようとした時、久知名按司が巧みな策略を用います。与那覇原軍は知恵や策に長けた村は攻めにくいと諦め、隣のミヌズマ集落を全滅させます。このことから按司は村の救い主として祀られました。

今ではその英知から学問に関する神とされ、合格祈願などがされています。



ミヌズマ遺跡の井戸



『宮古史伝』によれば、ミヌズマの^い一^い帯^どには、^し西^{でん}美^い野^の・^の美^の野^が我^ま麻^のと^しい^らった^く集^{けい}落^{せい}が^よ形^な成^はさ^われ、^め与^ん那^ひ覇^{やう}湾^ちに^せ面^いした^ま標^ひ高^ひ5^{やう}～^ち15^ちメ^せー^きトル^き程^のの^せ低^い丘^り陵^っ地^ちに^せ立^せ地^きして^いま^す。14^せ世^き紀^のの^な中^か頃^ご、^せ勢^い力^り拡^く大^だを^も目^も論^くむ^ぐ与^お那^い覇^や原^のの^ほ軍^ろ勢^よに^な襲^ばわ^られ、^ぐ一^ぜ夜^いに^しし^ちて^い滅^いぼ^やさ^れた^とい^われ^てい^ます。

井戸は深さおよそ8メートルほどの掘り抜きで、周囲の壁面には土止めの石積みが施されています。



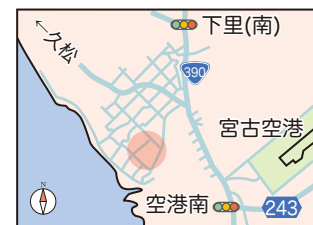
ミヌズマ遺跡



調査範囲

ミヌズマ遺跡は11～15世紀にかけての集落遺跡で、周辺のほ場整備に伴い、2012～2013年度に発掘調査が行われました。調査面積は約36,000平方メートルにおよび、島内最大規模の集落遺跡で、掘立柱建物跡や炉跡、埋葬人骨などが検出されたほか、中国産陶磁器や土器などが数多く出土しました。

現在は、ほ場整備が完了し、遺跡を見ることはできません。



ミヌズマ遺跡発掘調査報告

ミヌズマ遺跡の発掘調査で、多くのことが明らかになってきました。33基もの掘立柱建物跡が検出され、柱穴から滑石混入土器、カムイヤギ、白磁玉縁碗などが出土し、11～12世紀代を示すものも確認されています。また、2基の炉跡から採取したコムギ・オオムギの種子は、13世紀後半～14世紀中頃という年代測定値を示しています。これまで宮古島最古の穀物は16世紀前半～17世紀前

半とされてきましたが、ミヌズマ遺跡より出土したこれらの種子により、300年近く遡ることとなり、宮古島の農耕を考古学的な方面からも実証づける発掘調査であったといえます。

また、その時代、動物遺体として圧倒的にウシが多く、家畜として飼っていたことや、骨に残されたカットマークなどから食料とされていたこともわかっています。

調査区域の航空写真(2012年)



たてもの 6本柱の建物が複数並んでいる



第4号人骨(11～12世紀)成人・女性
足を折りたんで埋葬されている



遺物出土状況。13世紀後半～15世紀後半にかけての中国産陶磁器が主体となっている



復元された白磁・青磁



炉跡より検出された植物の種子 (13世紀後半～14世紀中頃)



宮古には存在しない岩石。安山岩、玄武岩、輝緑岩、砂岩、緑色片岩など。

スキラズマダニアーズ御嶽



この御嶽には、拝所がふたつあり、上の拝所にはスキラ按司が、下の拝所にはマダニアーズが祭神として祀られています。祭神については、さまざまな伝承があり、唐の7人兄弟のひとりが按司神となったという説、マダニアーズはスキラ按司の妻であるという説、久貝村がスキラ里という地名だったころの按司の名前であるという説など、由来ははっきりしていません。



宮古の氏姓から歴史を読み解く

宮古の士族の姓

氏	よみ	名乗頭
白川	しらかわ	恵
忠導	ちゅうどう	玄
根馬	ねま	定
玻立	はだて	泰
仲立	なかだて	幸
英河	えいか	真
河充	かわみつ	真
真世	しんせい	平
長真	ちようしん	旨
宮金	みやがね	寛
南興	なんこう	明
染地	そめじ	実
伊安	いあん	方
土原	んだばる	春
浦渡	うらと	常
奉始	ほうし	財
造宮	ぞうえい	布
捧銭	ほうせん	建
尚裔	しょうえい	朝
馬続	ばぞく	良
英俊	えいしゅん	恒
衡平	こうへい	知
候隆	こうりゅう	正
蔡孫	さいそん	武
思明	しめい	常
武裔	ぶえい	喜
益茂	ますも	昌
雍姓	ようせい	興
姚孫	ようそん	元
和種	わしゅ	景

- 始祖:与那覇勢頭豊見親
宮古の歴代頭職111名中35名は白川氏
- 始祖:仲宗根豊見親 17名の頭職を輩出
- 始祖:日黒盛豊見親
- 始祖:友利大殿 八重山のアカハチ討伐 (1500年) 功をたてた金志川兄弟の父
- 始祖:川満大殿 下地地方で仁政を施した
- 芋の主御嶽の祭神、砂川親雲上旨屋(長真氏旨屋)の一族。
- 始祖:知利真良豊見親
仲宗根豊見親の3男。12名の頭職を輩出。
- 伊良部島で人食い鮫を退治した豊見氏親の一族
- 始祖:土原豊見親 八重山のアカハチ討伐で仲宗根豊見親の配下として功をたてた
- 割重穀事件で功をたてた本村朝祥の一族
- 沖縄系の氏姓。『宮古史伝』の著者慶世村恒任の一族
- 沖縄系の氏姓。6人の頭職を輩出。
- 西ツガ墓はこの一族の墓
- 家譜は系図とも呼ばれ、琉球王府時代に士族に対してのみ作ることを許されたもので、家譜の有無によって、士・農の分離がはっきり示されたといわれています。
- 宮古の家譜の特徴は、氏姓が沖縄本島の「尚」や「毛」のような一文字ではなく、すべて二文字になっていることです。また、白川氏であれば「恵」、忠導氏であれば「玄」というように、特定の漢字を名前に入れ、それを代々継承しています。宮古では、66の氏姓が知られています。

ぶんかざい たいけいず
文化財の体系図

文化財の種類

特に価値の高いもの

特に重要なもの

重要なもの

文化財

特に必要のあるもの

保存と活用が特に必要なもの

保存できるよう考える必要のあるもの

有形文化財

建造物
美術工芸品 工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

指定

重要文化財

指定

国宝

世界から見ても価値が高い、国の宝

登録

登録有形文化財

無形文化財

演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

指定

重要無形文化財

登録

記録や作成などを考える必要のある無形文化財

指定

重要有形民俗文化財

指定

重要無形民俗文化財

登録

登録有形民俗文化財

登録

登録有形民俗文化財

選択

記録や作成などを考える必要のある無形民俗文化財

民俗文化財

有形民俗文化財 無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
無形民俗文化財 衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

記念物

遺跡 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
名勝地 庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
動物
植物
地質鉱物

指定

史跡

指定

特別史跡

指定

名勝

指定

特別名勝

指定

天然記念物

指定

特別天然記念物

登録

登録記念物

文化的景観

地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地 棚田、里山、用水路など

指定

重要文化的景観

伝統的建造物群

宿場町、城下町、農漁村など

指定

伝統的建造物群保存地区

指定

重要伝統的建造物群保存地区

文化財の保存技術

文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

指定

選定保存技術

埋蔵文化財

土地に埋まっている文化財

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

形のあるもの

無形文化財

指定

文化財

文化的景観

伝統的建造物群

埋蔵文化財

重要文化財

豊見親墓3基 (とうゆみやばか3き)

国宝

治金丸 / 沖縄県 (じがねまる / おきなわけん)

登録有形文化財

旧西中共同製糖場煙突 (きゅうちゅうにせいかきようとうせいとうじょうえんとつ)

重要無形文化財

宮古上布 (みやこじょうふ)

重要有形民俗文化財

ウイビヤームトウの祭場 (さいじょう)

民俗文化財

宮古島のパーントウ

重要無形民俗文化財

竹富島の生活用具 842点 / 沖縄県・竹富島 (たけとみじまのせいかつようぐ / たけとみじま)

史跡

遠見番所 (とみかんぼ)

特別史跡

吉野ヶ里遺跡 / 佐賀県 (よしのがりのせき / さがけん)

登録有形民俗文化財

竹富島の生活用具 842点 / 沖縄県・竹富島 (たけとみじまのせいかつようぐ / たけとみじま)

記念物

指定

登録記念物

旧仲宗根氏庭園 (きゅうちゅうそねしでいえん)

名勝

東平安名崎 (ひがしへんなさき)

特別名勝

識名園 / 沖縄県 (しきなえん)

天然記念物

オカヤドカリ

特別天然記念物

イリオモテヤマネコ

伝統的建造物群

別府の湯けおり・温泉地 / 大分県 (べつふのゆけおりおんせんち / おおいたけん)

重要伝統的建造物群保存地区

竹富島の農村集落 / 沖縄県・竹富島 (たけとみじまのりゅうんしゅうらく)

選定保存技術

芋麻糸手績み (ちまいとてうみ)

埋蔵文化財

住屋遺跡 (すみやいせき)

わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です
たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能のほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト



宮古島市neo歴史文化ロード **綾道(平良南/松原・久貝コース)**

発行 平成30年3月

編集・発行 宮古島市教育委員会

〒906-0103 沖縄県宮古島市城辺字福里600番地 1

TEL 0980-77-4947 FAX 0980-77-4957

イラスト・デザイン 山田 光

平成29年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業